

■榊原康政 武将・大名。徳川四天王・徳川十六神将・徳川三傑。全ての局面で際立った働きをし、現在も顕彰される。

さかきばらやすまさ
上杉謙信登場1548＝

三河国上野郷で、松平氏譜代家臣の酒井忠尚に仕える陪臣榊原長政の次男に生まれる。

幼い頃から勉学を好み、書を読んで、字も大変上手かったという。

・ ・ ・ ・ ・ 1557＝ 9歳：

桶狭間の戦い・1560＝12歳： 松平元康(後の徳川家康)に見出され、小姓となる。

川中島の戦い終1564＝16歳： 三河一向一揆鎮圧戦で初陣を果たし、家康から武功を賞されて“康”の字を与えられた。

・ ・ ・ ・ ・ 1566＝18歳： 元服。同年齡の*本多忠勝と共に旗本先手役に抜擢されて、与力50騎を付属される。
以後も家康の側近にあって、旗本部隊の将として活躍。

織田信長入京1568＝20歳：

石山合戦始・1570＝22歳： 姉川の戦いでは、朝倉軍の側面攻撃で多大な武功を立て、

三方原の戦い・1572＝24歳： 三方ヶ原の戦いでは、家康撤退時に自らは浜松城に入らず、昼間のうちに浜松城に入れなかった味方兵を呼び集めて夜を待ち、一斉に兵に声を上げさせながら敵陣に駆け入らせ、動揺し逃げ惑う武田軍を瓦解させてから浜松城に入る。

長篠の戦い・1575＝27歳： 長篠の戦いでは、決死の覚悟で徳川本陣に突撃してくる内藤昌豊を本多忠勝と共に戦って家康を守り、同年齡で仲が良かった、忠勝と軍功を競い合っている。

三河大樹寺で学んだ能筆家としても知られ、行政能力に長けており、家康の書状もよく代筆したらしい。

パリニャー謁見 1581＝33歳： 高天神城の戦いでは先陣を務めた。

本能寺の変・1582＝34歳： 本能寺の変直後の家康の伊賀越えにも同行。

家康が羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)と対立し、
小牧・長久手の戦いに至ると、信長の三男信孝を殺害したという秀吉非難の文言を達筆な文字であちこちに記すなどして、秀吉の甥秀次の軍勢をほぼ壊滅に追い込み、激怒した秀吉は康政の首に10万石の賞金をかけたと言われるが、羽黒の戦いでも戦功を挙げる。これによって秀吉の注意を引き、家康と秀吉が和平した後、最初の使者として秀吉から指名され、祝宴まで開いたという。

秀吉太政大臣1586＝38歳： 家康の上洛に随身、家康は正三位に昇叙、康政は従五位下・式部大輔に叙任され、豊臣姓を下賜された。康政は兄榊原清政を差し置き、榊原家の家督を相続しているが、理由として、清政が謀反の疑いで切腹した家康の長男松平信康の傳役であったことから、後悔の念で自ら隠居したためとも、清政が病弱であったため、度々康政が名代を務めることが多く、それ故に康政が家督を継いだともいわれるが、定かではない。

秀吉全国統一1590＝42歳： ちなみに家康が関東に移封された後、度々兄清政を見舞っている。*小田原征伐では徳川軍の先手を努め、家康が関東に移封されると関東総奉行として本多正信らを監督し、江戸城の修築に務める傍ら、上野国館林城に入り、忠勝と並んで家臣中第2位の10万石を与えられる。

方広寺大仏殿1593＝45歳： 館林では利根川東遷工事の一環の堤防工事や、街道整備などに力を注いだ。

豊臣秀吉没・1598＝50歳： 秀吉の死後、家康の命令で徳川軍を率いて近江国の瀬田まで進軍した。これは示威行動であるが、実際の兵力は3,000人ほどだったが、康政は瀬田に関所を設けて人留めを行なうことで、諸大名に大軍を率いているように見せつけさせたとされている。

前田利家没・1599＝51歳： 石田三成が伏見館の家康を襲って誅殺しようとしている情報を得ると、すぐに家康の元に馳せ参じ守ったという。この時も、すぐには伏見館に入らず、東国から押し寄せた家康を守る兵の数を少しでも多く見せようと考え、関所を設けて人々の往来を制限。それと共に兵を京、伏見、淀に送って、兵糧として赤飯、饅頭、餅、酒を一つ残らず買い取ると触れ回ったという。

関ヶ原の戦い・1600＝52歳： *関ヶ原の戦いでは、主力の徳川秀忠軍に軍監として従軍、中山道を辿り美濃国を目指すが、荒天で家康からの進発命令を携えた使者が遅れ、信濃国上田城の真田昌幸攻めを中止し、美濃に向かったもののやはり荒天で、秀忠とともに合戦に遅参。家康は秀忠の失態に激怒したが、康政のとりなしで事なきを得て、伏見城での対面が許され、秀忠は康政に大変感謝したと言われる。また、康政は秀忠に対して上田城攻撃を止めるように進言したとも言われている。合戦の後に老中となるが、所領の加増は無かった。一説に家康はこれまでの功績を賞して水戸藩25万石を与えようとしたが、康政は関ヶ原で武功が無かったとして辞退したと言われ、館林が江戸城に参勤しやすいことを理由に断ったのだとも言われる。家康は康政の態度に感銘して、康政に借りがあることを神に誓い証文として与えた。

東本願寺創建1602＝54歳：

江戸城完成・1606＝58歳： 秀忠は館林で病床にある康政を見舞うため、医師や家臣を派したが、その甲斐なく没した。親友関係にあった忠勝に武勇では劣るが、部隊の指揮官としての能力は忠勝に勝り井伊直政に匹敵するとされている。